

認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：令和5年 2月 2日（木）17：30 ～19：00

会場：北見赤十字病院 北館 3階 大会議室

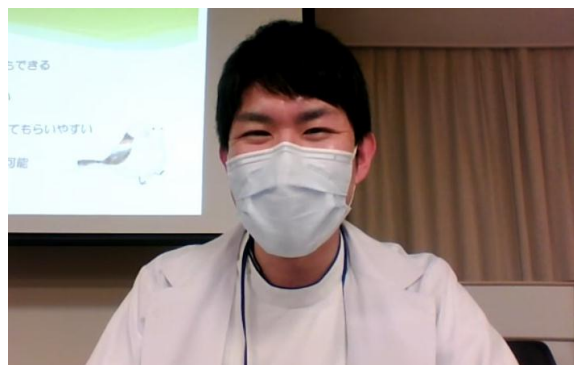


『介護の現場で役立つストレスケア』

感染症対策のため、Web 会議システムを活用し、ハイブリット形式の研修会を開催いたしました。オホーツク管内の医療・介護・福祉に従事する関係者 39 名に参加していただきました。

〈 講師 〉

北見赤十字病院 臨床心理課 公認心理士 田中 智也 氏



今回の研修会は当院田中公認心理士より『介護の現場で役立つストレスケア』というテーマで開催し、大阪経済大学の中川一郎教授が開発した「タッピングタッチ」を活用したケアについて講話していただきました。5種類のタッチの仕方（手の形）を教えていただき、中川教授による音声ガイドとリラックス効果のある音楽を用いて自分自身をケアする「セルフタッピング」の実践を行いました。他にもお互いをケアする「基本形」、相手をケアするときの「ケアタッピング」があり、シンプルな方法で特別な道具や場所も必要としないため、長く活用できることを教えていただきました。

質疑応答では、参加者より「対象者をどうお誘いしたらいいのか教えてほしい」「（感染症対策の観点から）手袋を使用して対象者へ実施しても効果は同じなのか」等、現場での実践に向けた質問をいただくことができました。

終了後のアンケートでは、「セルフタッピングを終えて少し気持ちが楽になった」「今後どのような場面で有効に活用できるかは難しくも感じるが、とても気持ちよく心と身体がほぐれた」等、参加者自身も実践を通してリラックスすることができたようでした。また、「お話しできない利用者様や、不安を訴える利用者様に実践してみたい」「職員に対するケアにも有効だが、デイサービスの日々のレクや体操の時間に加えていきたい」等の前向きな意見も多くいただくことができました。

今年度の認知症疾患医療連携研修会は終了となります。ご多用の中、ご参加いただきありがとうございました。来年度については、研修会の詳細が決まり次第、関係機関へご案内させていただきます。来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

（認知症疾患医療センター事務局 垂石記）

